

【研究費区分】：国際研究環

【研究代表者所属】：人間健康科学研究科 看護科学域

【研究代表者氏名】：織井優貴子

【研究代表者氏名フリガナ】：オリイ ユキコ

【研究代表者職】：教授

【研究課題名】国際水準シミュレーション基盤型看護教育システム構築と評価

【研究分担者（所属,氏名,職）】

- ・首都大学東京 大学教育センター, 松田岳士, 教授
- ・東京慈恵会医科大学, 武田聡, 医学部, 教授
- ・首都大学東京大学院人間健康科学研究科, 増谷順子, 准教授
- ・首都大学東京大学院人間健康科学研究科, 島田恵, 准教授
- ・東京慈恵会医科大学医学部看護学科, 福田美和子, 准教授
- ・神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部, 黒河内仙奈, 講師
- ・自治医科大学看護学部, 八木（佐伯）街子, 講師
- ・東京工科大学医療保健学部 看護学科, 野村美紀, 助手

【研究環組織名】：TMU シミュレーション基盤型看護教育システム国際共同研究チーム

【研究環 HP（\*本研究環組織の HP を作成している場合は、その URL を記入してください。）】

- ・なし

【研究環の活動概要と、ここで形成された研究グループ・研究拠点の今後の研究活動について】（600～800 字程度で記入。図（組織図含）、グラフ等の使用も可。）

- ・本研究チームは、2019年5月5日に、第1回キックオフミーティングを開催し、「国際水準シミュレーション基盤型看護教育システム構築と評価」を研究課題とし、共同研究に取り組むこと確認した。  
まず第一に、本学に「シミュレーション看護教育センター（仮称）」を設置し、医療を支える看護人材の支援・育成に人型シミュレータを用いた「看護教育システム（仮称）」を開発し、我が国におけるシミュレーション看護教育システムの先駆者となることを目的とした。  
研究組織は、看護教育に携わる教員7名、教育工学研究者1名、シミュレーション医学教育の国内での先駆的指導者1名とし、我国の看護教育において、教育工学的視点を取り入れた、国際標準となる「シミュレーション教育プログラム（仮称）」を作成することを目標とした。

【活動方法】

1. 研究代表者のこれまでの研究成果で教授設計に基づいて開発した「シミュレータ(コンピュータ制御の人体モデル人形)を用いたシミュレーション看護教育プログラムを、国際水準としてのモデルに必要な知識・技術・態度の到達

目標を新たに加え洗練する。

2. 国際標準となる「シミュレーション看護教育プログラム(仮称)」を作成し、国際比較が可能な評価基準を検討し、看護師の育成支援と国際水準のシミュレーション看護教育モデルの構築をめざす。

### 3. 国際シンポジウムの企画と実施

欧米では、「シミュレーション看護教育」は、2000年以降、積極的に取り組まれ、その成果を上げつつある。国際的に先駆的な研究者、実践者を招聘し、国際シンポジウムを企画し、広く国内に看護教育に「シミュレーション看護教育」の方法とその成果評価について、学際交流する機会を設けることとした。

#### 【今年度の活動実績】

1) 「INACSL (International Nursing Association for Clinical Simulation and Learning) 標準ベストプラクティス」の日本語訳

既に日本語訳で無償で提供されているものの日本語訳が難解であり、また我国の実情にあっていないことから、許可を得て、全9章を分担し、日本語訳に取り掛かった。主として、看護職者が分担したが、教育的視点からの助言(松田)、医学的視点からの助言(武田)を得ながら完成を目指している。

#### 2) 国際シンポジウムの準備と開催

開催日時: 2021年3月14日(COVID-19の影響を受け、当初予定(9月)より延期を決定した)

・名称) 東京都立大学国際シンポジウム 2020

会場: 学術総合センター(一橋講堂)(東京都千代田区一橋2-1-2)

参加者: 国内の看護教育者、看護職者、医療職者等、400名を予定している。

参加費: 無料(研究費の規定による)

#### 3) シンポジストの決定

現在、米国よりINACSL代表1名、Asia PacificよりAustraliaからの研究者1名、Asia areaよりSingaporeの実践者1名、Europe areaよりイギリス、ノルウェーの研究者・実践者各1名より内諾を得ており、社会情勢を見ながら正式な招聘状をお送りすることになっている。

#### 【学会発表(発表題目, 発表大会名, 年月を記入)】

・

#### 【論文発表又は著書発行(発表題目, 著者, 発表誌又は出版社, 年月を記入)】

・シミュレーション教育における演習の工夫と評価, 織井優貴子, 看護人材育成, 16(5), 97-103, 2019, 12月

#### 【学会会議開催実績報告】

\*Effect of Simulation Education Using Instruction System Design (ISD), ORII Y. Association for Simulated Practice in Healthcare, ASPiH 10<sup>th</sup> Anniversary Conference, 2019, Belfast UK, 2019 Nov.

#### 【海外研究者の招聘実績】

・2020年 国際シンポジウムに向けて、5名の海外研究者を招聘予定である。

#### 【国際研究環支援や外部研究費等への応募状況】

・2020年度 国際研究環支援 継続申請 採択

**【科学研究費補助金や国等の提案公募型研究費，企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】**

- ・科学研究費補助金基盤研究 A （不採択）

**【受賞等】**

- ・なし

**【その他社会貢献】**

[公的審議会・委員会等の公的貢献，生涯学習支援・普及啓発，国際貢献・国際交流等]

- ・INACSL 正会員（Leg. 日本代表）、日本看護シミュレーションラーニング学会理事、ASPiH 正会員

**【研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況】**

なし

**【研究分担額】**

(研究代表者・分担者名,所属,金額 (円))

- ・織井優貴子他・東京都立大学大学院人間健康科学研究科， 3,000,000 円